

英語における動詞化接尾辞の研究 —-en 接尾辞付加における意味的派生条件—

R13084 又 吉 貴 大

現代英語における動詞化接尾辞の中で、-ize, -ify が広く研究対象とされてきたのに対し、-en は生産性が低いものとして半ば等閑視されてきた。しかし、インフォーマントへの容認性判断などでは、一般的な辞書にはない -en による動詞化（以下、「-en 動詞化」）の例が見られ、これは -en 接尾辞の新たな生産性を示唆していると考えられる。

一方、先行研究における -en 動詞化の派生条件整備は完全であるとは言えない。形容詞の -en 動詞化においては、山根(1983)の形態統語条件、山根(1983)、Katamba(1993)の音韻条件、松崎(2011)のBlocking及び形容詞概念の動詞化の意義に関する制約、Levin & Rappaport(1995)の意味条件などが存在する。しかし、それらの条件を合わせても説明不可能な例が多く見られることを踏まえ、本論では従来の分析の例外となるデータも包括的に説明できる意味的条件として、新たに「基体形容詞の意味が段階性を持つものでなければならない」という条件を提案した。「段階性」を持つ形容詞とは、その意味が相対的かつ、程度の大小について言及可能であるような尺度的意味を持つような形容詞である。

具体的分析としては、『ジーニアス英和辞典(第四版)』（以下「G」）およびBNC(British National Corpus)を調査し、本論の主張を支持する次の結果が得られた。

- ・ G において -en 派生を受ける形容詞の多くが BNC において段階性を持つ形容詞としての振る舞いを示す。
- ・ G において -en 派生を受けない形容詞の多くが BNC において段階性を持た

ない形容詞としての振る舞いを示す。

更に、cheap, deep, weak などの、その反意語と尺度を形成すると考えられる形容詞と、moist, ripe のような、それ自体は尺度を形成しないが尺度上にその意味を位置づけることが可能である形容詞が共に -en 派生を受けることから、-en 動詞化に制約を与える「段階性」とは「尺度上にその意味を位置づけることが可能である」という意味での段階性であるという知見が具体的調査を通じて新たに得られた。